



まちとひと

市民百景

第12回

当たり前のように笑い
集まれる居場所づくりを目指して

会社経営 押切 伸哉さん (49)

そつした想いを踏まえ、押切さんが田舎すお店の形を尋ねると「自分たちが若い時は当たり前のようにあったカラオケ屋が無くなり、初めて居場所としての大切さに私自身も気づきました。子どもたちをはじめ多くの人が当たり前のように笑い、集まれる居場所をこれからも守っていけるよう、頑張っていきたいです」と笑顔で今後の決意を語りました。

昨年、11月29日にイオンタウン釜石に「カラオケ CLUB DAM」をオープンしたのは市内で飲食店などを経営する押切伸哉さん。「異業種の経営者の先輩が、高校生から『カラオケも無くなつて釜石は終わつてる』と囁われ、高校生のためにカラオケ店をやろうとしたが、断念したという話を昨年の10月頃に聞きました。私自身も長く育つてきたこの町をこのまま廃れさせるわけにはいかないと先輩の想いを引き継ぎ、急ピッチで開店準備をしました」とオープンまでの経緯を話します。

カラオケが無くなつてから市内の異変を感じ取っていたという押切さん。「昨年のお盆の夜、若者が青葉通りに集まつているのを見て、この子達は、集まる居場所が無くなつてしまつたんだと想いあした。同時に釜石出身の子どもたちが、このままでは帰ってきてくれなくなるのではないかという想いもありました」と振り返ります。

**すこやか
アイドル**

「すこやかアイドル」では、お子さんの笑顔とご家族のメッセージを紹介します。1~5歳くらいのお子さんの写真を広報に掲載しませんか?

市オーブンシティ・プロモーション室 (☎ 27-8463) または市のホームページからご連絡ください

岩澤 こはるちゃん (2歳)
いつもステキな笑顔で、周りを明るくしてね!

菊池 遥陽ちゃん (1歳)
優しい元気な子になってね!

小笠原 伊織くん (2歳)
これからも元気いっぱいで育つってね!



釜石市LINE公式アカウント